

令和5年度 学校評価 柏原中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な 学校運営の 目標・方針	<p>【学校教育目標】 『こころ豊かで、自立する生徒の育成』 ～ 学び合い、支え合い、鍛え合う柏中生 ～</p> <p>【めざす生徒像】 ① 学んだことを活かせる生徒 ② 自治的な集団づくりを通して成長する生徒 ③ 目標をもって努力する生徒</p>
本年度の重点目標	<p>① 基礎・基本の学力を定着させ、学んだことを活用する力を育てる</p> <p>② 自治活動を高め、人との関係づくりを通して社会を形成することができる力を育てる</p> <p>③ 目標をもって取り組む生徒を育み、それを支援する環境を整える</p>

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	学校経営	家庭・地域との連携の推進	A	<p>○ホームページの更新、学校だより、生活指導通信、学年・学級通信、学校安心安全メールを通して、学校での生徒の様子や行事の様子を伝え、家庭や地域への発信に努めた。</p> <p>○保護者アンケートで「学校からの通信やたより・HPで、学校の様子がよくわかる」の項目で肯定的な回答が91%であった。また、「学校での出来事についてよく話をするか」では、約83%の生徒と保護者が肯定的な回答をしている。そして、「子どもの悩みや問題について、学校は相談しやすいですか」にも84%の保護者が肯定的に回答している。今後は、さらに学校の配布物等が保護者に確実に行き渡るよう生徒に呼びかけていきたい。</p> <p>○コミュニティスクールの取組として地域参画を進め、ボランティア活動等に参加することができた。また、地域の方に学習支援に来てもらうこともできた。今後、地域の中学校として生徒が地域に出ていき、地域の方には学校へ来ていただけるよう取り組んでいきたい。</p> <p>○2月の厄除大祭で、かいばら一番館において、地域への発信ができた。</p>
		業務改善の推進	C	<p>○生徒と向き合う時間を増やし学校としての教育力の維持・向上と、教職員一人一人の資質向上をめざして「働き方改革」を推進してきたが、課題改善の進展は少なかった。</p> <p>○教職員の退勤時間の改善や会議の効率化については、今年度も否定的な回答が多く業務改善の推進は不十分である。しかし、1学期より2学期の方が肯定的な回答が19%増加している。今後はさらに業務の見直しとタイムマネジメントを進めていく。</p> <p>○来年度は教職員のワークライフバランスと生徒のスクールライフバランスを考慮しながら、強かに改善を推進する。例えば学年会議の日を設定するなどして改善を図る。</p>
	生徒指導	自立をめざした自治的活動の推進	A	<p>○学校教育目標である『こころ豊かで、自立する生徒の育成』をめざし、生徒会や委員会等の自治的活動を積極的に推進してきた。</p> <p>○「学校は、自治的な集団づくりを通して成長する生徒の育成に努めている」では、今年度も全教職員が肯定的な回答をしており組織的な取組ができている。</p> <p>○自治活動(生徒会、委員会、学級活動)に積極的に取り組んでいると肯定的に回答する生徒の割合は88%(R4 87%)であった。肯定的な回答が安定してきたのは、活動制限がなくなったことが考えられる。また、保護者アンケートでも積極的に自治的活動に参加していると85%が肯定的に回答している。</p> <p>○地域ボランティア活動にコミュニティスクールの取組と連携し、生徒会を中心に活動することができた。また、まちづくり柏原と連携することもできた。さらに多くの生徒が主体的にボランティア活動に参加するよう取り組んでいく。</p> <p>○「自分には良いところがあると思いますか(生徒)」で、77%の生徒が肯定的に回答している。これはさまざまな活動を推進した成果であると思われる。</p>
		組織的な生徒指導の推進	B	<p>○生活指導委員会や生徒支援委員会を中心に、情報交換や共通理解を図り、安心して学べる学校づくりに努めた。</p> <p>○生徒指導と不登校対応について、生徒に寄り添った丁寧な対応ができた。不登校対応については、別室の利用が進んだり3学期になり教室にもどれた生徒もでてきた。</p> <p>○「先生は、いじめ・暴力などの防止に積極的に対応し、安心して学べる学校づくりに努力していますか」に対して96%、「先生は、生徒の服装・身だしなみ・あいさつ・善悪の判断など、基本的な生活習慣や規則を守る習慣が身につくよう指導していますか」に対して、98%の生徒が肯定的な回答をしている。</p> <p>○「学校が楽しいですか」に対して91%の生徒が肯定的に回答しており、昨年度より10%増加している。しかし、「楽しくない」と回答した生徒が3%(R4 7%)いるので、今後も、授業改善や一人ひとりを大切にする指導を充実させていく。</p> <p>○今年度もSNS等に関するトラブルが多く発生している。スマホやタブレットの使用について不安に思っておられる家庭もある。来年度に向け、さらにいろいろな取組を推進していきたい。</p>

教育課程	学習指導	授業改善の推進	A	<p>○今年度、授業研修の研究テーマを「考え議論し、こころの視野を広げる授業づくり～声カケ・問いカケ・仕カケ～」とした。昨年度までの授業改善を深化させ、道徳の授業づくりと合わせて推進をした。対話的学び合いを通して主体的に深く学ぶことやICT機器の活用方法について協議した。</p> <p>○「あなたは授業内容がよく理解できますか(生徒)」と「おさんは学校の授業に意欲的に取り組んでいますか(保護者)」では、いずれも85%以上が肯定的な回答をした。また、生徒アンケートより、授業のはじめに「めあて」を提示(98%)し、最後に「振り返る活動」を行う(92%)ことが定着したと思われる。</p> <p>○「教職員は研究テーマを共通理解し、その実践に努めている」では、90%の教職員が肯定的な回答をした。</p> <p>○授業の中で「学び合い」のためにペアトークやグループトーク、教え合い、小グループ学習などが定着してきた。授業の中で「学び合い」ができていく割合が高いほど授業が理解できている生徒が多く、授業で分からないことを友達に聞く生徒も多くなっているため、さらに学び合う授業を推進していきたい。また、タブレット等のICT機器を積極的に取り入れることが、授業内容の理解や学び合いの推進に役立っている。</p>
		家庭学習の習慣化の推進	C	<p>○学力向上具現化プランの目標の中で、「家庭学習を習慣化し1日平日1時間以上勉強している生徒を70%以上にする」ことをめざした。しかし、1時間以上の生徒は42%で、教職員の「日ごろから家庭学習の内容や方法について指導を行っている」は、68%が肯定的な回答をしている。1学期は88%だったので、来年度は1年間続けることを目指す。</p> <p>○生徒が自主的に家庭学習をしていると答えた保護者は約61%(R4 59%)である。出した宿題を忘れずにしている生徒は85%(R4 75%)であり、昨年度よりもよくなったが、今年度も家庭学習をいかに取り組ませるかという課題は残った。家庭学習に取り組むことはもちろんであるが、自ら学ぶ意義を理解し授業や家庭で学ぶことの楽しさを身に付けさせたい。</p> <p>○家庭でのICT機器の使い方について、はじめをつけて活用している生徒は92%、保護者は50%であり、今年度も生徒と保護者の使用状況の認識に大きな差がみられる。ICT機器の利用時間と家庭学習の時間の確保の関係についてさらに調査の必要がある。</p>
課題教育	特別支援	個に応じた特別支援教育の推進	B	<p>○特別支援教育推進委員会を月に1回開催し、支援を要する生徒の情報交換と具体的な支援方法等を検討した。また、生徒の情報交換を職員会議で行い、全教職員で組織的に支援しながら一人ひとりの生徒に寄り添った指導を推進した。</p> <p>○「合理的配慮」に基づく個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、計画的な支援を行った。また、将来の自立に向けて、3年間で計画的な進路指導を行うようにしている。</p> <p>○特別支援教育のいろいろな視点について、職員会議で啓発した。「学校全体として、特別支援に力を入れている」では、94%の教職員が肯定的な回答をしている。来年度は特別支援学級が1学級増えるので、研修会をもちたい。</p>

3 学校関係者評価

<p>○自己評価は概ね妥当である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域で相互に人的交流が徐々に進んでいるのがよい ・生徒が地域ボランティアに参加することは、学校で学ぶこととはまた違った良い面があると思う ・今年度は地域ボランティアにプラスして、厄除大祭でそれぞれの学年の展示発信があり、たくさんの地域の方々に見ていただけてとてもよかった ・全体的にHPがよく更新されているが、一部で更新が滞っているところが気になる(柏原中学校コミュニティスクール等) ・「学び合い」の授業を今後も継続してほしい ・支援を要する生徒について教職員間で情報共有するのは親にも安心を与える ・教職員アンケートの否定的な回答について、理由等を追跡調査して改善につなげるのもよいのではないか
--

4 次年度の改善の方向性

<p>○教職員の意識改革を図ることで「働き方改革」を推進し、教職員が生徒と向き合う十分な時間を確保する</p> <p>○ICT機器の活用を推進し、授業改善や基礎・基本の学力向上を図る。また、学ぶことの意義をおしえることで、家庭学習の習慣化を図る</p> <p>○スマホやタブレット等の利用について、生徒と保護者の認識の違いを改善する取り組みを進める</p> <p>○コミュニティスクールの取組をさらに推進し、地域に開かれた学校となるよう努める</p> <p>○自立する生徒の育成のため、自己肯定感・自己有用感を高める支援を継続して推進する</p> <p style="text-align: center;">令和 6年 3月 22日</p> <p style="text-align: center;">学校名 丹波市立柏原中学校</p> <p style="text-align: center;">校長名 小林 宏明</p>
